

## ⑪ 公開特許公報 (A)

平1-234297

⑤Int.Cl.<sup>4</sup>B 42 D 15/02  
G 06 K 17/00  
19/00

識別記号

331

序内整理番号

J-8302-2C  
B-6711-5B  
Y-6711-5B

⑥公開 平成1年(1989)9月19日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

⑦発明の名称 カードホルダー

⑧特 預 昭63-61068

⑨出 預 昭63(1988)3月15日

⑩発明者 中島 康孝 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑪出願人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地

⑫代理人 弁理士 中尾 敏男 外1名

## 明細書

## 1、発明の名称

カードホルダー

## 2、特許請求の範囲

- (1) 複数枚のカードを収納できるカード収納部と、このカード収納部に収納されたカード内の情報にアクセスするアクセス部とを有するカードホルダー。
- (2) アクセス部はターミナル部から、カード収納部に収納された個々のカード内の情報に個々にアクセス出来る構成とした特許請求の範囲第1項に記載のカードホルダー。

## 3、発明の詳細な説明

## 産業上の利用分野

本発明は、I C等の情報記憶素子等を内蔵したI Cカードまたはメモリカード等と称されるカード(以下これらを単にカードと称する)を複数枚収納するためのカードホルダーに関するものである。

## 従来の技術

メモリカードは、その形態が一般的のクレジットカード並の平面積を持つ非常に小型の情報記録媒体で、機械的に動作する点がないので、高速にデータの授受が出来る。また、記録容量も最近は半導体の発達で256KB(キロバイト)に達するような大容量の物が市場に出始めている。

## 発明が解決しようとする課題

この様なカードの用途は、非常に広範に汎用されるが、特に携帯用のワードプロセッサ等には最適の記録媒体となることが考えられる。この様なカードを大量に使用し始めると、次のような問題が発生する。

- ① 大量のカードをどのように保管するか。
- ② 各々のカードにどんな情報なりデータが記録されているかを、簡便に知る必要性が発生するか、それにどう対処したらよいか。
- ③ 沢山のカードの中から、必要とする情報なりデータが記録されているカードはどれかと言うことを、簡便に探し出す必要性が発生するが、それにどう対処したらよいか。

等と言ったカードの管理に関する問題がクローズアップされてくる。本発明は、この様なカードの管理に関する問題を解消せんとするものである。

#### 課題を解決するための手段

そこで本発明は適当な大きさの“台紙”、即ちカードホルダーに、カード収納収納部、即ちポケットの様なものを複数設け、このポケットに入手などによりカードが収納された時、カードの情報をアクセスできるアクセス部を設ける。例えばカードに設けられた電気的接点に接して、カード内の情報にアクセスできる電気的アクセス部を各ポケットに設ける。そしてこれらのアクセス部を電気的にカードホルダー上の一箇所に、ターミナル部として、例えば、コネクターの様な形態で集中させる。

#### 作用

上記カードホルダーのターミナル部により、カードホルダーを外部のパソコン等の処理装置につないで、必要な処理を行う事により、上記問題点は解決できる。即ち、パソコン側に、各カードへ

ズとし、カードホルダー14のサイズを略△4サイズとしているので、カードホルダー14には6枚のカード12が充分に収納できている。

従って、カードホルダー14には6ヶ所にカード収納ポケット、即ちカード収納部16が設けられている。各収納部16には、カード10が収納された際に、カード10の接点12にアクセスして、即ちこの場合は、カード10の接点に接触して、カード10と信号の授受が出来る接点(例えば板パネで出来た物など)、即ちアクセス部がカードと対応した位置に設けられている。これらの詳細な構成は、極めて一般的な技術で容易に為し得るので、その詳細な説明は省略する。

カードホルダー14の端部には、ターミナル部18が設けられている。このターミナル部18は、各カード収納部16のアクセス部に接続されている。図の20は、ターミナル部18とアクセス部との接続状態を模式的に示したバスラインである。

#### 発明の効果

- (1) 上記カードホルダーのターミナル部により、

のアクセスプログラム、各カードの内容一覧(一般的には、カード内のファイル名)表示プログラムを持たせる事により、複数のカードを一枚のカードホルダーに収納したまま、上記問題点を解決できる。

#### 実施例

第1図は一般的なICカードの例を示しており、カード10には電気的接点12が、露出した形で設けられている。この接点12を通じてカード12内の半導体素子と情報の授受がなされる。情報の授受の形態は、この例のように接点12に外部から電気ブシが接触して行われる方法の外に、光による方法や磁界による方法、更には静電気を利用した方法など色々あり、用途により使い分けられている。本発明に於ては、その方法の区別は問わないもので、簡単な第1図の例で説明する。

第2図は、本発明の一実施例のカードホルダー14を示す。使用するカード12及びカードホルダー14のサイズは任意でよいが、本例では、カード12のサイズを一般的クレジットカードサイ

カードホルダーを外部のパソコン等の処理装置に接続し、パソコン側に、各カードへのアクセスプログラム、各カードの内容一覧(一般的には、カード内のファイル名)表示プログラム等を持たせる事により、複数のカードを一枚のカードホルダーに収納したまま、各々のカードにどんな情報なりデータが記録されているかを、簡便に知る事が出来る様になる。

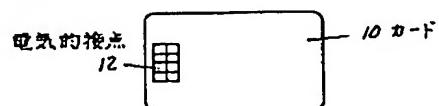
- (2) 同様にして、沢山のカードの中から、必要とする情報なりデータが記録されているカードはどれかと言うことを、簡便に探し出す事が出来るようになる。
- (3) カードの保存とカード内の情報へのアクセスが一枚のカードホルダーで同時に出来る。
- (4) この様なカードホルダーを、複数枚、バインダーの様なもので物理的に束ね、且つ電気的にもコネクター等で接続して束ねたカードホルダーを作り、それを上述のパソコン等の処理装置に接続する事により、より大規模なカード管理手段を構成することが出来る。

## 4. 図面の簡単な説明

第1図はカードの一実施例を示す上面図、第2図は本発明の一実施例のカードホルダーの上面図である。

10……カード、14……カードホルダー、  
16……カード収納部、18……ターミナル部。  
代理人の氏名 幸理士 中尾 敏男 拓か1名

第1図



第2図

